

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 27 年度 第 7 回 相模原市経営評価委員会				
事務局 (担当課)		経営監理課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 4 0 (直通)				
開催日時		平成 27 年 1 2 月 4 日 (金) 1 8 時 3 0 分 ~ 2 0 時 2 0 分				
開催場所		相模原市役所 本館 2 階 第 1 特別会議室				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	市					
	事務局	5 人 (企画部長 他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 議事 (1) 事務事業評価に係る建議書 (案) について (2) その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 議事

(1) 事務事業評価に係る建議書(案)について

建議書(案)について、質疑応答・意見交換を行った。

(以下、質疑応答・意見交換 は委員の発言、 は事務局の発言)

(1) 事務事業評価に係る建議書(案)について

【1 国民健康保険 資格窓口等業務】

当面の間は現状継続でやむを得ないが、平成30年度以降に民間委託等への移行を検討すべきと考えるが、建議書では、将来的な方向性についてはどのように評価すればよいのか。

今回の評価は、来年度に向けて取り組むべきことを評価していただきたい。また、当面の間の評価として「現状を継続」とするが、今後の在り方については、建議書のご意見として反映している。

【2 児童手当業務】

評価の意見として挙げられている、見直しの際の部局間を含めた業務の包括化は、検討の見込みがあるのか。

今後、類似する窓口業務について水平展開ができれば、民間活力の活用によるスケールメリットが大きくなり、サービスの向上につながるものと考えている。

【3 ケアプラン点検業務】

評価は「現状を継続」としているが、限りなく「見直し」に近い評価と思われることから、議論が必要である。

ケアプランを点検することが有効であるならば、給付の適正化に向けてどのような手法が望ましいのか考える必要がある。

点検手法はいくつかあるようだが、今後の展開に向けて事業実績を積んでいくことが主眼であれば、「現状を継続」でやむを得ない。

事業担当課では、点検結果をケアプランの作成にフィードバックしながら今後の仕組みを検討していくために、現状を継続としたいという意見である。

他市の状況も参考にして、検討を進めていただきたい。

今後の具体的な進め方は検討されているのか。現時点での評価は「現状を継続」であるが、今後、点検件数や方法の見直しを行うことがあれば、別の手法もありうるの

か。

将来的には別の手法も考えられるが、現時点では、事業担当課は現状を継続とする方が、効率的かつ効果的であると考えている。

将来的に見直しが必要となる可能性もあるので、評価理由の「現状を継続」の前に、「当面の間の評価として」を加えてはどうか。

ケアプラン点検事業の実績を積んでいくことを当面の目標としていることから、「当面の間の評価として」といった文言を加える。

【 4 高度処理型浄化槽維持管理業務】

・特になし

【 5 藤野駅周辺駐車場事業】

グルーピングを行う場合、どこが想定されるのか。

同種の近隣施設として、現在指定管理者制度を導入している相模湖ふれあいパークが想定される。

指定管理者制度のみでなく、民間貸付も可能であるとする。

コストの問題だけでなく、市民サービスの向上が図れるような手法を検討していきたいと考えている。

【 6 深堀ポンプ場ほか5施設維持管理委託】

・特になし

【 7 橋本台リサイクルスクエア運営事業(維持管理・運營業務)】

施設が直営で存立する意義は何か。

ごみの減量化や資源を大切に必要性を市民へ啓発することが設置目的であり、直営による運営が効率的であると考えている。

ただちに施設全体を包括委託することは難しいと感じるが、直營業務の一部委託化など手法を検討して、今後、包括的に委託化することもできるのではないかと考えている。

当面は「現状を継続」であるが、PPP（公民連携）における市民サービス向上の視点から、実施手法について検討の幅が広がる可能性もあるのではないかと考えている。

来館者数からして、施設としての機能は果たされているのか。

年間来館者数は約1万6千人で、小学校等の団体見学も含まれている。ごみの減量化・資源化を周知啓発しており、橋本台リサイクルスクエアのほかに、南部地区に施設の更新計画がある。

今後は、設置目的に沿った形で施設の仕組みを検討しながら、実施手法のさらなる

可能性を探っていくことも考えていただきたい。

【 8 史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館の管理・運営】

現在のところ、情報の発信手段としてパンフレットのほかに何かあるのか。

市ホームページのほか、行事や講座などの開催情報は広報紙でもお知らせしている。

普及啓発の課題の一つとして、交通の便が良くないことが挙げられる。

遺跡が出土したことにより施設が整備されたようなので、今後、施設の在り方をよく考えていく必要がある。

当該地区で貴重な文化財が出土したことから、市として後世に残すために展示施設と公園を整備したものであり、有効活用されるよう引き続き検討する必要があると考えている。

事業を継続していくためには、民間のノウハウを生かした情報発信により認知度をさらに高める必要がある。また、イベントの実施など企画立案能力は民間の方が優れていることから、早期に民間活力を導入すべきであり、単に「現状を継続」の評価でよいのか。

施設の認知度を向上させるための民間活力の導入検討については、評価の意見としたい。

【全体意見について】

市には市内業者を育成していくことが求められており、市外業者とのジョイントなどで技術を蓄積させることによって育成していくという観点も意見に加えていただきたい。

全体的に市民にわかりやすい表現としていただきたい。

【評価結果の水平展開について】

事務事業評価実施要領では、経営評価委員会において評価結果を水平展開できる事業を選定し、建議することとしている。

今年度は、局区において検討した事業の中から、代表的な8事業を選んで評価をしていただいているところであり、8事業の評価結果を他の類似事業の見直しに生かしていくこと（＝水平的な展開）を目的として、次の展開に結び付けるための一定の基準と視点を示していただきたいと考えている。

事業の選定案で、窓口業務と審査業務に区分している理由は何か。

窓口受付の切り分けの可能性として、申請を受けその場で決定する窓口業務と、後日決定する審査業務に区分している。

窓口業務では、ワンストップ化や待ち時間短縮といった市民サービスの効率化を図るための視点も挙げられる。

個々の窓口業務の委託化は大幅な効率化にはつながらないと考えられることから、市民サービスの視点から、各業務の包括化を前提とした水平展開を検討すべきである。

専門性の高い審査業務の視点の一つとして、労働者派遣を加えることも検討してはどうか。労働者派遣は市の直接的な指揮命令が可能であり、民間委託に比べてノウハウの蓄積に長けていると思われる。

委託化の場合、偽装請負などの問題が発生する可能性もあることから、コンプライアンスを徹底することも触れておく必要がある。また、視点の一つとして、どのような形で委託化が可能なのか民間事業者側から提案してもらうことも挙げられる。

評価結果の水平展開で示す基準は、今後継続して市の基準となるのか。

今回の建議書における評価を受けて、水平展開が可能と考えられる事業の基準及び視点を示すものである。

評価結果の水平展開については、継続審議とする。

(2) その他

次回委員会の開催は、平成28年2月10日頃とする。

相模原市経営評価委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	山口 由紀子	相模女子大学人間社会学部教授	委員長	出席
2	田所 昌訓	相模原市自治会連合会会長	副委員長	出席
3	川崎 一泰	東洋大学経済学部教授		出席
4	出雲 明子	東海大学政治経済学部准教授		出席
5	霧生 卓	公認会計士		欠席
6	清水 良則	相模原商工会議所青年部会長		出席
7	櫻井 正友	公募委員		出席
8	澤野 光晴	公募委員		出席
9	高橋 静子	公募委員		出席
10	水戸 隆	公募委員		出席